

BOOK MARK

薬害エイズ裁判和解 10 周年記念企画
 「くりかえされる薬害の
 原因は何か」開催

2006 年 12 月 3 日、東京で、薬害エイズ裁判和解 10 周年記念企画「くりかえされる薬害の原因は何か」が開催された。

記念講演「科学の外観をまとったグローバル・ビジネス」では、『抗うつ薬の功罪——SSRI 論争と訴訟』（みすず書房）の著者デーヴィッド・ヒーリー氏（英国の精神科医・大学教授）が、欧米の製薬会社が精神科領域において薬の売り上げを伸ばすため、情報操作により新しい病気概念を作り上げている事例を発表。人間のあり方が、市場原理に左右される危険性を指摘した。

特別報告「薬害肝炎の加害構造」では、石田光史



氏（薬害肝炎九州弁護団）が、2006 年 6 月と 8 月にそれぞれ大阪・福岡地裁で出された薬害肝炎訴訟の判決を読み解き、この 3 月に予定される東京地裁判決で注目・期待すべき点を示唆した。

そして東京 HIV 訴訟弁護団によるシンポジウム「薬害エイズ事件の教訓と薬害根絶」が鈴木利廣氏（同弁護団事務局長）を司会に行なわれ、薬害エイズ事件、そして和解からの 10 年のなかで何が問題であり、何が変わったのか、当時の政策や患者の人権など、さまざまな側面から提起され、その後の質疑応答では事件の当事者も含む会場の参加者から、活発な意見が飛び交った。●本誌編集室